

事業番号	006
------	-----

平成26年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	表彰式典開催事業						担当部	市長公室							
	会計区分	一般会計			事業類型	一般		担当課	秘書広報課							
	事業期間	平成12年度以前			～	平成30年度以降		担当係	秘書係							
	総合計画 分野別計画	主目的	7 行政経営		30 地域協働		1 協働によるまちづくりの環境を充実します									
		副目的														
	予算区分	款	2		項	1		目	2		大	3		中	1	
	根拠法令・個別計画	小牧市表彰条例、同施行規則														
	目的 (対象をどのような状態にするのか)	市政功労者や叙勲等の受章者の功績・栄誉を称えることにより、市政へ貢献している人を広く市民へ周知し、市政に対する意識を高める。														
	内容 (手段)	<p>市表彰条例に基づき市政功労者を決定し、新年賀詞交換会と同時に市政功労者表彰式を開催し、表彰及び記念品を贈る(年1回)。 叙勲・褒章受章者に対しては、市政功労者表彰式において記念品を贈る。</p> <p>【平成25年度決算直接経費の内訳】 自治功労・一般表彰等記念品料 688,950円 叙勲受章者記念品料 420,000円 市政功労者表彰式会場設営委託料 94,500円 パンフレット印刷代 81,900円 筆耕翻訳料 58,800円 その他、食料費、式典用資材借上料等 149,730円</p> <p>【平成26年度予算直接経費の内訳】 自治功労・一般表彰等記念品料 1,335,000円 叙勲受章者記念品料 600,000円 市政功労者表彰式会場設営委託料 120,000円 パンフレット印刷代 130,000円 筆耕翻訳料 80,000円 その他、食料費、式典用資材借上料等 307,000円</p>														
	受益者負担	無														

		単位	H23決算額	H24決算額	H25決算額	H26予算額		
コスト	費用	直接経費	千円	1,523	1,140	1,493	2,572	
		正職員	従事者数	人	0.15	0.15	0.15	0.15
			人件費	千円	789	789	789	789
		その他職員	従事者数	人	0.00	0.00	0.00	0.00
			人件費	千円	0	0	0	0
		費用合計	千円	2,312	1,929	2,282	3,361	
	対前年比	%		83.4	118.2	147.2		
財源	一般財源	千円	2,312	1,929	2,282	3,361		
	国・県支出金	千円	0	0	0	0		
	その他財源	千円	0	0	0	0		

業	活動指標名	単位	H23	H24	H25	H26	
	績	市政功労者表彰式、新年賀詞交換会	回	目標	1	1	1
実績			1	1	1		
		目標					
		実績					
		目標					
		実績					
成果指標名	単位	H23	H24	H25	H26		
被表彰者	人	目標	—	—	—	—	
		実績	22	9	27		
		目標					
		実績					

事業の自己評価	平成25年度の実施結果	事業の達成状況	平成26年1月6日に、市役所大会議室において一般表彰・自治功労表彰12名(市職員部長職6名、教員6名)と小牧市市民会館ホールにおいて一般表彰15名(スポーツ推進委員1名、人権擁護委員1名、民生委員・児童委員5名、学校医3名、学校歯科医1名、少年センター補導員2名、小牧市危険物安全協会会長1名、元公共交通利用促進協議会会長1名)を表彰した。(市民会館ホールにおける一般参加者は約250名)			
	事業実施における課題		今後も市政に貢献した人への表彰は続けて行く必要があるが、表彰基準については、誰もが納得できる時代に適合した内容になっているか常に留意する必要がある。			
	事業を縮小・廃止したときの影響		長年市政に貢献した人物・団体への表彰であり、市の表彰制度がなくなることは、市政参画意欲の低下を招く恐れがある。			
	平成26年度の改善内容	26年度における事業の改善・見直し内容(新規追加事項、廃止・削減事項等)	事業規模は原則として現状どおりとするが、まだ、賀詞交換会において食糧費の経費削減の余地があるため、毎年の来場者の状況を見て適切な発注を行う。			
	平成27年度の事業の方向性	方向性の判定	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの(対象や手段を見直す場合も含む)		
		判定理由	過去に行った表彰制度の見直しや叙勲受章者の祝賀会の廃止により、大幅な経費の削減が図ることができ、現状が本事業を運営していく上で最低限の事業規模であることから「維持」と判断する。			
27年度以降の改善案		平成26年度同様、賀詞交換会において、飲み物の発注数については毎年の来場者数の状況によっては減らすことが可能であるので、これまでの来場者数を考慮して、適正な発注を行う。				

二次評価	方向性の判定	判定理由
	維持	一次評価のとおり。